



京都 YWCA

11 2014

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

京都 YWCA 新事業開始記念 上野千鶴子さん講演会

自分らしい「老い」を生きるために

去る10月11日、京都YWCAの新事業開始を記念して、社会学者上野千鶴子さんによる新事業開始記念講演が行われました。新事業の概略説明と「おひとりさまを生きる」（あかめ工房）上映後、上野さんに講演いただきました。豊富な事例を紹介しながらユーモアを交えた説得力あるお話に、会場を埋めた皆さんは熱心に聞き入っておられました。以下お話の概要です。



講演する上野千鶴子さん

家族に代わるネットワークが必要な時代

超高齢化が進む日本社会において、非婚や離婚の増加もあり最期は「おひとりさま」になる確率が高まっている。長生きすると親より子が先に死ぬいわゆる逆縁となる比率も高まる。つまり、子どもがいる人も最期は「おひとりさま」かもしれない、子どもがいても当てにできない時代となった。今や家族・親族に代わる友人・知人のネットワークをもつ、「金持ち」ならぬ「人持ち」でありたい時代となった。長生きの末に死ぬ人はゆっくりと死ぬ。これは死期が予測できるということであり、誰とどこで老いるかを選び「終活」を考える人が増えている。地縁・血縁が頼りにならなくなった今、自ら選んだ縁ある人々と住む居住共同体（コレクティブ・リビング）が広がりつつある。ただし、この共同体も加入脱退の自由なものがない。

今年6月に成立した医療・介護関連一括法によると、病院・病床は増やさず、病院は急性期医療と高度医療に限定し、入院期間を短くし、施設は増やさず、来年4月からは要介護3以上でないと特別養護老人ホームに入れなくするという。今の病院死8割の状況を、政府は今後「ほぼ在宅、ときどき病院」という状況へと変えようとしており、介護難民、死に場所難民はピーク時49万人になると予想される。

家で死ぬためには何が必要か

多くの人は、住み慣れた町での普通の暮らしの中で死を迎えることを望む。このような在宅死のためには看取りや認知症ケアが必須であり、民間の知恵で生み出されたいくつかのパイオニア的な事業例がある。例えば、1993年に開始した、子どもから障害者、高齢者までを対象とする富山県のディサービス「このゆびと一まれ」は行政の縦割りを切り崩し、現在の小規模多機能型施設のモデルとなった。厚労省が進めている地域包括ケアシステムは、民間のこのような先駆的事业を追認する形で始まったものである。

在宅死に必要なものは、暮らしを守る24時間対応の介護・医療・看護である。さらに弁護士、税理士、葬儀業者なども加えたチームによる「トータルライフマネジメント」が望ましい。看取りチームを組むには費用がいるが、手の届かぬ額ではない。76歳以上の持ち家率は85%と言われ、不動産を担保にして死後精算するリバースモーゲージ制度があるが、家族の反対が多く広がらない。資産をもたない人も含め誰もが家で安心して死ぬためには、医療保険と介護保険を利用しつつ、（低所得者向け短期集中高額ケア費用の公的減免制度なども含め）一人ひとりに合わせたケアのソフト（システム）が必要である。

（上村愈巳子）

大規模改修工事終了！新しくなった京都 YWCA へ一度足をお運びください

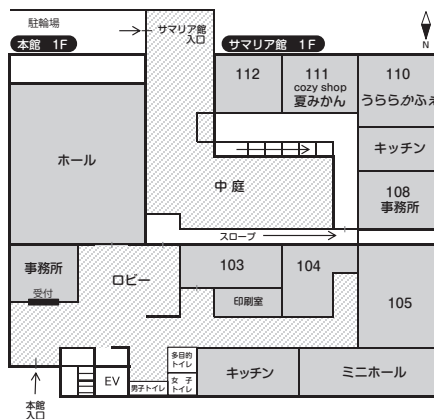


本館入口から見える受付とロビー



本館からサマリア館へのアプローチ

《京都 YWCA 会館 1 階案内図》



サマリア館側の門と植栽花壇



本館 105 号室

8 月末、本館とサマリア館の耐震補強及び大規模改修工事が無事終了しました。9 月初めからは、本館 2 階サービス付き高齢者向け住宅「サラム」への入居が始まり、4、5 階「あじさい寮」に留学生が入居し、サマリア館の「うららかふえ」も営業が始まっています。

本館の入口から見える印象が全体的に「明るく」、「入りやすく」、「見通しが良く」になりました。本館入口部分は、北側にあった元駐輪場用の屋根が撤去されて明るくなり、玄関口からは、正面に事務所、ロビーの様子もうかがえ、入口から中庭を隔ててサマリア館のたたずまいも望むことができます。

中に入ると天井や床の色が以前よりも暖色系で明るい色になっていて、太陽の光が差し込みます。各部屋、ホールの中の耐震補強鉄骨ブレスは、むき出しであってもその部屋になじむようにデザインされていて、ほとんど違和感を感じさせません。館内は、段差が少なくなり、エレベーターも設置されたので移動がしやすくなりました。ロビーには、京都 YWCA オリジナルグッズや情報のコーナー、英語の本の本棚、休憩できる空間があります。ロビーからスロープを通るか中庭を横切ってサマリア館に行くことができます。また、南側駐輪場からの門を通ってもサマリア館へ入れます。会員が手掛けた玄関や中庭の植栽や花壇は、訪れる人々の心を和ませてくれます。

(坪野えり子)

「3 市 YWCA 交流会 in 京都」を開催！

秋風が気持ち良い 9 月 13 日(土)の午後、京都 YWCA にて、恒例の大阪、神戸、京都の YWCA の交流会を開催しました。今年は名古屋 YWCA からの特別参加もあり、60 名を超える参加となりました。

まず京都 YWCA の新事業を紹介した後、改修された会館を案内し、屋上からサマリア館のカフェまでを見ていただきました。

そして各 YWCA から、「長く続いている実践」と「新しい実践」を共有しました。古いものでは高齢の方への配食サービス、新しいものではジェンダー女子会など、YWCA が社会の状況に合わせた活動を展開していることを改めて感じました。

また 8 つの分科会に分かれ、それぞれの実践を共有し、協働の可能性を模索しました。ユース分科会では、各地域にジェンダーや暴力について関心のある若者がいることが分かり、ぜひ持ち回りで、若者が気軽に話せる場を作りたい！ということになりました。

私たちに多くの仲間がいること、そしてひとつの YWCA だけでは微力でも、集まれば活動が広がっていくことに気づく温かい時間を過ごしました。

(伊原千晶)



スウォン YWCA を訪問して学んだこと

(8/14 ~ 8/17 実施)

私は韓国の友達を作りたいと思い、このプログラムに参加しました。韓国 YWCA のイ・ユンスクさんの原発についての講義、日韓のユースによる文化紹介、スウォン観光を通して交流しました。様々な習慣の違いもあり、スウォン YWCA の友人宅でのホームステイはもちろん、サランチェ(ユースホステル)での共同生活も緊張と戸惑いと驚きの連続でしたが、その中で違いを拒むのではなく、受け入れる姿勢が身につきました。文化の違いばかり目につきがちですが、共通点を見つけることで人は仲良くなることを実感しました。

政治的・歴史的な問題を理由にお互いの国のことを良く思っていない人もいますが、4 日間の交流を終え、年齢も国籍も文化も、人と関わる上で何の障壁にもならないと改めて気づきました。学校では学ばない両国のための平和へのアプローチについて、皆が自然に学んだと思います。

スウォンと京都のスタッフの方々に、このような素敵な出会いの場を下さったこと、本当に感謝します。

(塩山阜月)

—京都 YWCA ブクラ主催・講演会—

パレスチナ・ガザにおけるジェノサイド ～私たちに何が問われているのか～

9月15日、京都YWCA平和委員会ブクラ主催で、パレスチナ問題に詳しい岡真理さん（京都大学教授）に講演していただきました。

イスラエルのネタニヤフ首相が、ヨルダン川西岸地区ヘブロンにおけるユダヤ人学生3名の行方不明事件をパレスチナの「ハマスが拉致した」と断定したことを端に、7月7日からガザのジェノサイドが始まりました。パレスチナ側死者は2168名（80%は民間人）、イスラエル側死者は71名（民間人4名の他は兵士）でした。51日間の攻撃は、人権感覚を振り捨ててしまったかのような殺戮のための殺戮、破壊のための破壊であったと言えます。

攻撃のねらいはパレスチナ暫定統一政府発足の阻止

イスラエルの攻撃の目的は、ハマス（ガザ）とファタハ（西岸）が和解し、暫定的統一政府を発足させることを切り崩すことにあったのです。国家間関係の正常化（オスロ合意）が実施されれば、パレスチナは長期停戦の用意があるのに対して、イスラエルは二国家間解決を望んでいません。この6年間に行われた3回の大規模攻撃は「芝刈り」と表現されています。ガザを封鎖し飢えな

い程度に占領しておくことは、イスラエルの国益にかなうのです（基幹産業で

ある軍需産業のための古い兵器の一掃、新武器の開発実験など）。ユダヤ系市民の95%が戦争を支持していて、これは官民によるレイシズム、アラブ人に対するヘイトを扇動しています。封鎖のままの停戦は生きる可能性を奪うことであり、構造的暴力です。

国際法でも占領下の住人の権利は認められています。ガザの80%は、国際支援を受けなければ生活できません。1日に16時間も停電すれば、医療設備への影響などは多大で、東日本大震災時のことを考えても、いかに大変なことかは容易に想像できます。

私たちは報道に表れることだけで判断せず、より正確な情報を得て判断し公正な批判の目をもつことが大切であり、これは決して“対岸の火事”ではなく、今の私たちの身近な問題にも言えることです。

（神原喜久恵）



講演する岡真理さん

シリーズ ～京都 YWCA 多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり～

サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」がスタートしました！

サラーム運営委員会

天候不順がありながらも改修工事が8月末に無事に終了しました。築46年の本館は耐震補強され、エレベーターが設置されました。その2階に定員8名のサービス付き高齢者向け住宅「サラーム」が誕生しました。京都YWCAが目指す「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の先陣を切ってサラームへの入居が9月1日より始まりました。それに先立ち2日間の内覧会を行い、高齢者福祉関係者や地域の人を含め、多くの方々にご来場いただきました。

今後サラームを含む「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」をサラーム（平和）のモデルとして提示していければと、さまざまな情報発信の取り組みを行っていく予定です。手始めとして、去る10月11日に社会学者上野千鶴子さんの講演会を開催しました（本紙の1面記事を参照ください）。来年1月31日には京都キリスト教福祉会理事長の岡山孝太郎さんの講演会を実施する予定です。また、2015年4月から、京都YWCAにおいて、上京区地域介護予防推進センターによる高齢者向け健康プログラムの出張塾が開催される予定です。地域の60

歳以上の高齢者にYWCAに足を運んでいただく機会となればと思います。

入居者の方々に対しては、入居者同士の交流や京都YWCAを知っていただ

くための交流会を含め、京都YWCAのさまざまな活動に親しんでいただくことを支援する取り組みを行っていく予定です。

9月から営業を開始した「うららかふえ」では、「あじさい寮」に入寮した留学生を含めて、ランチやカフェで出会いの花が咲き始めているところです。玄関の花壇には、会員の手でいろいろな草花が植えられました。これら草花とともに、私たちの活動も育っていくことを願っています。



「サラーム」の共同居間

今後のプログラム

◎ Wonderful Sunday Live

～みんなで平和を奏でよう～

多くのみなさんと「平和」について考える
楽しい時間を共有するために、上映会とコン
サートを開催いたします。

- 日 時：2014年11月9日(日) 13時半開場
- 場 所：京都 YWCA ホール
- 参加費：第2部のコンサート1,000円(中学生以上)
移住避難者、障がい者 500円
保育有：300円(1部のみ、10月31日までに要申込)

■ 内 容：

- 第1部 (14:00～15:00)
ドキュメンタリー「9条を抱きしめて」
～元米海兵隊員アレク・ネルソンさんが語る戦争と平和～
- 第2部 (15:20～16:30)
ジャズピアニスト河野康弘さんによる「ピースコンサート」

- 申込み：要(前日まで)

◎ YMCA/YWCA 合同企画プログラム

仁藤夢乃さん講演会

「ずっと居場所がほしかったー
「若者の現状」と「つながりの必要性」

- 日 時：2014年11月14日(金) 18:30～21:00
- 場 所：京都 YWCA ホール
- 参加費：一般 500円(軽食付き)
- 講 師：仁藤夢乃さん
(一般社団法人 Colabo 代表、「難民高校生」著者)
- 申込み：要

◎ クリスマスバザール～共に生きる世界を～

おいしい食べ物やバラエティあふれる掘り
出し物など、お楽しみをいっぱい揃えてお待
ちしています♪お手伝いも募集しています！

- 日 時：2014年12月6日(土) 10:00～15:00
- 入場料：100円
※受付で「お楽しみ抽選券」と交換します。

◎ 多文化理解プログラム

ーフィンランドのクリスマスー

京都在住の早崎ニーナさんに、フィンラ
ンドのクリスマスの様子のほか、教育、女
性、暮らし、フィンランド語、そしてムー
ミンについてなどお話いただきます。京都
YWCA のあじさい寮のフィンランドからの
女子留学生もお二人参加して頂きます。

- 日 時：2014年12月20日(土) 13:00～14:30
 - 場 所：京都 YWCA ミニホール
 - 参加費：800円
(フィンランドのケーキとお茶つき)
 - 講 師：早崎ニーナさん
 - 定 員：30名(先着順)
 - 申込み：要(12月13日締切)
- ※なお、この日の「うららかふえ」のランチ
メニューは「サーモンのスープ&フィンラ
ンドパンなど」600円です。(食数限定、ラン
チ代は参加費に含まれていません)

◎ 小学生の居場所

「冬休みキッズデアウト in ガジュマルの樹」

恒例となっている小学生対象の冬休みプ
ログラムをこの冬も開催します！クリスマ
スをお友達と楽しんだりお出かけしたり、
平和について考えたり…楽しい時間を過ご
しましょう！

- 日 時：2014年12月25日(木)～27日(土) 10:00～17:00
- 対 象：小学1～6年生
- 参加費：1日参加 2,000円
3日間参加 4,500円
- 定 員：20名(先着順)
- 申込み：要

お待たせしました！ スリフトセール寄贈品受付再開します！

- *受付日時：第1・第3金曜日と第3土曜日
11:00～15:00
(お受けできない期間：年末年始・祝日・8月・
6月と12月のバザール1週間前)
- *場 所：京都 YWCA 本館1階ロビーの特設受付にて
- *受付量：お一人様、紙袋1つ分
- *受付させていただくものについてはお問い合
わせください。担当が一緒に確認させてい
たきます。お持ち帰りいただくこともござ
います。ご協力をお願いいたします。

ご寄付ありがとうございました。

2014年8月1日から9月30日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

浅野献一、森律子、山田パトリシア、
中井和子

各指定寄付

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ 事業にむけた改修募金

吉谷節子、高橋正子、玉眞慎子、
西原美香子、中務裕之、神崎清一、白蛭伊、
木戸杏菜、谷澤準一、齋藤佳津子、
安藤いづみ、伊藤美子、名古屋 YWCA、
神戸 YWCA、北垣景子、有田佳子、
一色光世、田中愛子、森川睦子、匿名、
コイン募金

*親・子育て支援活動委員会

京都家庭文庫地域文庫連絡会(親子ライ
ブラリーへ)

*APT

神門佐千子、孫美幸、安藤いづみ、
ブラーボンキワラシ

*平和委員会

平和委員会有志、ブクラ講演会参加者

*ふれあい食堂「うららかふえ」運営委員会

宮武美知子

*自立援助ホーム カラーナ

浅本仁、手島千景、上村京子、坪野えり子、
小泉小枝、日本キリスト教団洛南教会、
宮川知子、舟越克真、齋藤佳津子、應典院・
秋田光彦、安藤いづみ、蛭間俊之、猿橋正子、
西文子、松岡由香子、伊藤眞一郎、堀部碧、
奥田かな、京風会京都部会、
長瀬正子、匿名

*子どもの居場所運営委員会

福島移住女性支援ネットワーク

*賛助費

木村穰、窪田左知己、上村剛士、中井和子

手作りのぱんやさん

キートス

北欧 フィンランドのパンをご家庭に・・・

京都市中京区壬生坊城町33 グラデール朱雀002

TEL・FAX：075-842-0585

URL：http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kitos/

多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業 にむけた改修会費にご協力いただいた方々

坪野えり子、山本知恵、植田祥、井上依子、匿名3名

9・10月／理事会報告

- 2014年9月1日付で、サービス付き高齢者向け住宅「サラム」始動。(入居開始)
11月末までに7人の入居決定。(残る1室を継続募集)
- 「あじさい寮」に留学生15名が入寮。(会員会友による「すけっと」プログラム始動。)
- 「オープンハウスと感謝会」(9/6)、「三市Y交流会」(9/13)、無事終了。
- 2014年度の「1/2期決算と年度末見込み」協議。
- 次年度以降の各部・委員会による事業の見直し・検討協議を開始。
- 各新事業のための「ロゴタイプ」作成、今後活用する。
- 「カラーナ」の準備および、今後の連続講座などに(独)福祉医療機構から助成決定。
- 2014年度YM/YW合同企画プログラム「仁藤夢乃さん講演会」(11/14)

KYOTO YWCA No.523

2014年11月号(11月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都 YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電 話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

U R L http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財) 京都 YWCA

定 価 50円